

建築計画基礎 Basic Theory of Architectural Planning
--

教員名	木多道宏（きた みちひろ）							
教員連絡先 （研究室所在地・TEL）	吹田キャンパス 本部棟 4 階キャンパスデザイン室、または、 吹田キャンパス 工学部 S 1 棟 7 階 7 1 1 (D) 室 電話：06-6879-4479							
E-MAIL アドレス	kita@arch.eng.osaka-u.ac.jp							
履修対象	建築工学コース（2 年次）							
単位	2	セメスター				1		
受講条件	地球総合工学概論、地球・環境総合工学を履修していることが望ましい。							
授業の教育目的・目標 他科目との関連	建築の計画に関する思想と論理の展開を学び、建築文化としての意義、生活環境の場としての意義、都市の構成単位としての意義を理解する。							
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H
	○		◎					○
授業計画・概要	テーマ		概要					学習・教育目標
	空間構成の計画（3 回）		様々な建築計画事例の分析を通して、建築の空間を組み立てるための理論と技術に関する基礎的な知識を身に付ける。（包括 3 回）					A C H
	外部環境の計画（2 回）		建築ならびに建築群の配置計画、建築と連続するオープンスペースの計画、ランドスケープデザインなどの理解を通して、外部環境の計画に関する基礎的な知識を身に付ける。（包括 2 回）					A C H
	単位の計画（1 回）		建築の規格、生活領域のまとめ、建築家によるデザイン単位など、建築や生活環境を構成する様々な単位と、これを用いた計画のあり方について基礎的な知識を身に付ける。（包括 1 回）					A C H
	建築と計画を取り巻く環境（1 回）		気候、風土、文化、地勢、技術、制度などが建築に与える影響を理解するとともに、これら諸条件に配慮した計画の理論と技術に関する基礎的な知識を身に付ける。（包括 1 回）					A C H
	領域の形成とデザイン（2 回）		領域、近隣関係、社会環境の形成に配慮した建築や集住環境の計画に関する専門的な知識を身に付ける。（高度 1 回）					A C H
	空間知覚・認知の特性（2 回）		空間の知覚・認知、建築や都市のイメージの特性から、空間形態の意味や心理的効果に関する専門的な知識を身に付ける。（高度 1 回）					A C H
	人にやさしいデザイン（1 回）		視覚・聴覚・肢体等が不自由な人々の空間知覚や行動特性を理解し、多様な人々にやさしい建築計画に関する基礎的な知識を身に付ける。（包括 1 回）					A C H
	建築・都市の形成のしくみ（2 回）		近代以前の建築・都市・集住環境が形成されるしくみの読みとりと、近代の建築・都市計画の意義を理解する。さらに「現代移行」を克服するデザイン論を議論する。（高度 1 回）					A C H
	学期末試験（1 回）							
教科書	プリントを配布する。							
参考図書・文献等	・建築計画教科書研究会編著「建築計画教科書」 ・「新建築」不二出版 ・「10+1」INAX 出版 ・「GA JAPAN」エーディーエー・エディタ・トーキョー ・鈴木成文著「住まいを読む」建築資料研究社 ・陣内秀信「イタリア 都市と建築を読む」講談社 ・小林秀樹「集住のなわばり学」彰国社 ・宇杉和夫他「まち路地再生のデザインー路地に学ぶ生活空間の再生術」彰国社 など（授業中に内容に応じて紹介する）							
成績評価方法・評価基準	A、C、H とも、中間レポート（20%）、学期末試験（70%）、出席回数（10%）で評価する。							
オフィスアワー	随時 e-mail にて対応							
コメント								